

Feeling excited

Dance with Heart  
The Kikunokai Troupe  
We are burning with enthusiasm  
in creating national art for the new era.

Chairperson Michiyo Hata  
Chief Editor Misuzu Takahashi

# 日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会  
〒161-0031  
東京都新宿区西落合2-21-23  
TEL 03-5983-6001 (代表)  
京都八瀬研修所  
〒601-1254  
京都市左京区八瀬野瀬町10  
TEL 075-712-8701 (代表)  
http://www.kikunokai.co.jp/

Dancing from the heart



暑中お見舞い  
申し上げます

舞扇  
【随想】

Photo Hiroshi Mizobuchi

maiongi

か つて、フランスの小学校で学校公演を行った時、とても印象深かったことがあります。ユーモア溢れる「釣女」の演目の中で、大名に美女の奥方が、太郎冠者には醜女で超不美人の奥方が決まるところがあります。太郎冠者の奥方が被っていた美しい衣をゆつくりと、その何とも不思議な御面相を出そうとしたとき、客席に大人のような洒落た笑いが、一面に花が咲いたように広がったのです。その公演でフランス人に、「日本人はこんなにユーモアがある民族なんですね」と言われました。

その後「しめ込み」という落語を題材にした「花冠者」という作品を創りました。そのお話は、泥棒がとある家に盗みに入り、凄まじい夫婦喧嘩に思わず仲裁に入ってしまうというものです。こうした、日本の庶民の笑いを狂言舞踊の作品にして楽しんでいきます。

落語の中でも好きな話に「雛鎧」というのがあります。とある大名の若様が屋敷の庭で一文銭を拾い、「これは何か、お雛様の刀の鎧か?」と言ったのを、お抱えの植木屋が聞いてすっかり感心し、帰って息子にその話をします。折りから出入り先の番頭がやってきて話をします。お雛様の刀の鎧か」と父親に聞きます。番頭はびっくりして、「何とよく育てた事か」と感心します。すっかり得意になった植木屋は「そんな汚ねえもの、早く捨ててしまえ」。すると息子は「捨ててもんか。これ持ってって、焼きいも買ってくらあ」と、とんだボロを出してしまします。落語家さんの持ち味によって、この若様と家来、また植木屋と息子のとほけ具合の絶妙さが何とも楽しく、いつも思い出すたびに心地よさが甦ってくるのです。



狂言舞踊「釣女」

## 『日本人とユーモア』

舞踊集団 菊の会  
代表 畑道代

### 【月光に舞うー公演予定】

- おさらい会 京都菊の会八瀬研修所  
7月20日(火) 祝日 1時開演 入場無料
- 教室発表会 なかのゼロホール  
8月6日(金) 12時開演 入場無料
- ディナーショー つくば山水亭 0298-55-8181  
8月8日(日) 12時30分/5時30分開演
- 南越谷阿波おどり 南越谷駅前/コミュニティセンター 入場無料  
8月21日(土) 6時開始  
8月22日(日) 6時開始
- 日本のおどり ムーブ町屋 (荒川区地域振興公社共催事業)  
9月4日(土) 昼夜公演予定 入場料¥4,500(当日¥4,800)
- 菊の会日本の心を語る 新宿厚生年金会館(民音公演)  
10月9日(土) 3時開演 民音会員料金S席¥4,000 A席¥3,300  
一般料金S席¥4,500 A席¥3,800
- 日本のおどり さかえプラザ(千葉県文化振興財団主催事業)  
10月16日(土) 3時開演 入場料¥2,000
- 菊の会アトリエ公演 『日本のおどり』新宿菊の会スタジオ 03-5983-6001  
10月22日(金)~24日(日) 昼夜公演¥4,000(当日¥4,500)  
29日(金)~31日(日)
- 京都八瀬研修所公演 『カッチャ行かねかこの道を』  
11月5日(金)~7日(日) 八瀬研修所 075-712-8701  
12日(金)~14日(日) 昼夜公演¥4,000(当日¥4,500)
- 菊の会自主公演 (各会場とも昼夜公演予定)  
12月2日(木) 越谷コミュニティセンター(大ホール)  
12月3日(金) 新宿文化センター(大ホール)  
12月4日(土) 川越市市民会館やまぶき会館  
12月8日(水) 志木市民会館  
12月10日(金) 所沢市民文化センターミュージズ  
12月11日(土) 日野市民会館

### 《民族芸能に積極的》

日本各地の伝統芸能の保存と人材育成の催しに積極的に取り組むとともに、民俗芸能をモチーフにした舞踊劇を公演。新しい舞踊文化の創造を目指しています。



青森県「さなぶり荒馬」

### 【学校公演】

日本舞踊って楽しい!「日本舞踊のイメージが変わった」。毎回、そのような感想が寄せられる菊の会・学校公演。迫力ある演技、衣裳の美しさ、スピード感のある演出で、必ず満足の声を頂戴しています。子供たちに素晴らしい思い出が残りますよう、是非一度お問い合わせください。

### 茶房 舞む OPEN 5周年

8月23日は舞むのOPEN 5周年。当日は、日頃のご愛顧に感謝をこめて、御来店の皆さまに記念品を用意させていただきます。ぜひ皆さままでお出かけください。

### 【問い合わせ】

学校公演・上記の詳細  
広告のご依頼やその他の  
お問い合わせについては  
03-5983-6001 (代)  
菊の会「企画部」まで

Editor : Hiroshi・Wada/Satoshi・Hara/Sachiko・Nakayama  
Yumiko・Nagai  
Design : Nagamitsu・Satake  
編集協力 : CLIP/HMS

# INFORMATION

### 【ひまわりグループの研修会修了】

爽やかな6月の京都・八瀬研修所で、待望の人材育成グループ(ひまわりG)の研修会が行われました。代表 畑道代の舞踊指導の他、勉強会、見学会など充実した研修ののち、ひまわりGⅢ期生が、天舞GⅢ期生に昇格しました。



畑代表と天舞グループⅢ期生

### 【教室案内】

菊の会は関東近県に29、京都に1つの舞踊教室があり、2歳から80歳までの幅広い年齢の皆さんが、楽しく日本舞踊に取り組んでいます。生徒400名のうち、子供100名、男性40名。夫婦、兄弟、親子三代と家族そろって稽古に通う、充実した教室です。あなたも始めてみてはいかがでしょうか。(お問い合わせは菊の会へ)

### 【菊の会友の会】

5月5日、本年度の「友の会」総会が府中のホテル「マロード・イン東京」で盛大に開催されました。鹿島建設顧問の神谷会長の挨拶の後、参加者は和やかな雰囲気の中で歓談。最後に、畑道代代表が謝辞を述べ、総会の幕を閉じました。  
\*友の会では、新規のメンバーの募集を行っています。菊の会をより発展させるために皆様のお力をお借し下さい、心よりお待ちしております。お気軽にお問い合わせください。

## お・ふ・た・い・む

### お稽古

公演メンバー  
鶴岡泰重

「音がちゃんとかけられなければ、一人前の舞踊家には絶対になれないのよ!」と昔からよく先生に怒られました。最近はお稽古の音かけも随分と変わりました。昔はお師匠さんがお三味線を弾きながら、お稽古をしてくださったと聞いています。そういえば、古典のお稽古を始めた子供の頃、最初に口三味線を覚えましたが、機械に頼らず唄いながら踊る、今思うと一番大切な基本のような気がしています。  
今の音かけはMDで、曲の頭が瞬時に出てきて、いつ何時曲の頭に返しても、途中で返しても安心ですが、その頃は、すべて勘によるものでした。  
先生の師匠である初代尾上菊之丞師は完璧だったそう、レコード針を手にしてふつと下ろすと、印もしていないはずなのに、踊り出すところにピタッと私のはじめてさせて頂いた頃は緊張感一杯で、いつ止めるかいつ戻すかそれは冷や汗ものでした。他の人から声をかけられても、先生から目だけは離せませんでした。  
「鳥の千歳」の音かけで、先生が稽古を最初に戻すまでの短い間に、目を細め、レコード針の頭何個分と狙いを定めておつと針を下ろし、「ツンテンチン蓬が鳥の」とつづけて三回かかった嬉しさは忘れられません。  
不思議なもので、緊張感の中、いつも音かけをさせて頂いていると、曲の頭に戻すか、途中で戻すか、もうおしまい、汗を拭きたいか、喉が乾いたか、先生の呼吸が少しはわかるようになった感じがしてきました。



プロフィール  
つるおか やすしげ  
1975年10歳で畑道代に師事。  
舞踊劇「黒潮に踊る」で畑道代の弟役に抜擢される。  
その後、菊の会の作品および数々の海外公演に出演。  
1999年に東京新聞舞踊コンクールに「梅の栄」で1位に入賞  
文部大臣賞、東京都知事賞受賞。

# 文化の香り高いまち

## 藤枝市と菊の会

藤枝市長  
八木金平



藤枝市は、江戸時代は田中藩の城下町で、東海道五十三次二十一番目の宿場町として、全国に知られています。藤枝という地名は「松に花咲く藤枝の一王子宮居ゆたかにいく千代をへむ」という歌に由来するとも言われています。「藤」という優雅な花の名を地名の中に残していることで、古くから文人墨客に愛されてきました。その流れを絶やすことなく、文化の香り高いまちを目指しています。藤枝は、静岡市の通勤圏内ということから、人口の流出は少なく親子三世代で生活している人が多い安定した町です。この度、菊の会の畑さんに「藤枝音頭」の新しい振り付けをお願いしたのは、藤枝がとても舞踊の盛んな町だからです。お祭りでは町中の人たちが踊りに参加し、毎年楽しい催しを行っています。皆さんも、是非一度藤枝にいらしてみてください。

### NEWS

#### 第二回『やなぎさ』開催

新世紀を担う若者とチビツ子たちの舞台が、五月五日、府中の森劇場ふるさとホールで晴れやかに開催。「賀の祝」「羽根の禿」「藤娘」「玉兎」の古典や民族舞踊詩「ふるさと囃子」の真剣な演技に、惜しみない拍手が送られた。



下「駒山囃子」/右上「玉兎」/左上「羽根の禿」



「神出空」



「梅川」



「おぼろ」

#### 民音公演 in 中国地方

五月十九日の尾道市を皮切りに、宇部・米子・萩と四日間連続で「日本のおどり」を開催した。各地域で、今回の公演を心待ちにして下さった皆さんの笑顔に包まれ、大成功を収めることができた。

#### 壮観！『日本のおどり』 戸田公演

五月八、九日と戸田市文化会館で開かれた「日本のおどり」は、公演メンバーが古典を踊り、担当講師、助師、準公演メンバーが演歌選集を踊った。華やかな舞台上、早くも次回を期待する声が上がった。

### danwashitsu 談話室 舞夢 maimu

林 世宝(リン・シン・パオ) 画家。台湾出身。名古屋芸術大学卒業。第二回日展等に入選。一九九八年にベニー彫刻「平和行進曲像」を広島大学で除幕。ニューヨーク市在住。

畑 林さんはベニー(セント)を百万枚集めて、平和の行進曲像を造られましたね。どうして、ベニーでそのような作品を作ろうと思ったのですか？  
林 ばくがアメリカに渡ったときに、こんなことがありました。ある人がお金を落としたので、ばくが「コ

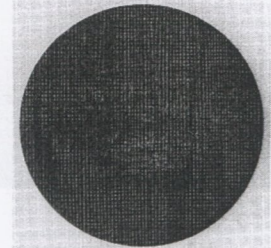
## 芸術は平和のために

インが落ちましたよ」と声をかけると、その人は「なんだベニーか」と言っただけで拾いもせずに行ってしまった。ばくは、その姿を見ていて、同じお金のなかにベニーだからと言って粗末にする事はないのと思ったのです。

畑 それで、ベニーを使って作品を作ろうと考えたのですか。

林 ええ、ベニーを私たち二人一人の人間にたとえて、平和の行進を作ろうと考えたのです。ベニーのように小さな力しかない人間でも、たくさん集まれば大きな力になるということを表現したかったのです。

畑 芸術は平和のためにこそ存在しなければならぬと思います。私たちの舞踊が人々の明日への活力となる程のものになって、平和のために少しでも貢献できれば、これ以上の喜びはありません。



#### 平和行進曲像

林 先生の仰るとおり、それはとても大切なことだと思います。ところでばくは舞踊に詳しくないのですが、日本舞踊と歌舞伎舞踊はどのように違うのでしょうか？



畑 道代と林 世宝氏

## 小さな力で大きなうねりを

畑 尾上流を創立。その家元に舞踊の天才と言われた私の師匠、初代尾上菊之丞が六代目の後を継ぎました。

林 そうですか、日本の伝統芸は歴史があるだけに難しいものなの

## 桐の小箱

kiri no kobako

2

### 変化舞踊

激しい役と次々に変化して踊るのです。

また、歌舞伎の演目にも「於染久松色読販」(お染の七役)のように、ひとりの役者が、お染、久松、久松

の許嫁のお光、久松の姉の奥女中竹川、竹川の元使用人の土手のお六、お染の母お染の兄の恋人・芸者小糸と七役を演じ分ける作品があり、大変なスピードが要求されます。

久松とお染が上手と下手から登場。当然一人は代役ですが、入れ替わる瞬間に衣裳小道具すべてがすり替わるといふ見せ場があり、役者と裏方の呼吸がしっかりと合って初めて可能な舞台なのです。

### 風雅なひととき「八瀬アトリエ公演」

五月二十七日より三日間に渡り、京都・八瀬研修所にてアトリエ公演を行った。八瀬の新緑の美しさと同化するよう、畑道代が「乙女竹」を舞った。群舞「流れ」、狂言舞踊「釣女」、故郷の心を舞う(演歌選集と多彩な演目で、京都の春の優雅なひとときを創出した。

## TOPICS

### 全国舞踊コンクール表彰式

六月三日、本年度の東京新聞主催・第五回全国舞踊コンクールの表彰式に各方面の関係者が参集し、東京の如水会館にて開催された。一位を獲得した鶴岡泰重に表彰状と楯が授与され、会場から盛大な拍手が送られた。一位に中山照子、二位に青木有子が入賞。



## 花筏

中央大学教授 中野 光



二十年前ほど前、はじめて中国を訪れたときのこと。上海の名刹、玉仏寺で聴いた僧の読経の節の一部が、九州・宮崎の民謡、ひえつき節に似ていたのに驚いた。偶然の一致かもしれないし、私の主観的な印象だったのかもしれない。

## 真実への想像力と美しさ

しかし、私は中国仏教のお経と日本の九州の民謡が節まわしにおいて似ている不思議ではない、と思っ

地図の上で九州と上海とを直線で結べば、その距離は約一千キロメートル、九州と東京とのへだたりにほぼ等しい。海が穏やかでありさえすれば、船による往復は充分に可能であろう。そういえば、杭州のある飯店(レストラン)でたまたま隣あわせになった漁民だといふひとりの初老の中国人から

こんな話を聞いたこともあった。「私が幼かったとき、祖父から、漂流して岸辺にたどりついた日本人を助けて薪を燃やして暖め、我が家に泊めたという話を聞かされたことがあります。日中両国民のあいだには、歴史の書物には記されていない友好の歴史的事実があるんですね。」

そうであるにちがいない。日本人とアジアの諸国の人々との交流も私たちの知識をこえて古くからあり、しかも濃密な関係が積みかさねられてきたはずである。私たちは、これらの書かれざる歴史の真実には、人間としての想像力をもって迫るほかない。

菊の会の公演に接すると、私は人間社会の歴史の奥行きを感ずる。そして、畑道代さんをはじめとするこの会の人々が創造される美の世界は、人間社会の真実に迫ろうとするゆたかな想像力にうらづけられている、と思っ

たとえば、昨年京都で観ていた「藍の女」、そこでは歴史という縦糸と、地域という横糸で紡がれる人間の社会がいかに豊かな文化を作り、伝えてきたかを、私たちが美の世界に誘って学ばせてもらった。

畑道代さんと菊の会の皆さんのご健康を祈り、ご発展を心から期待しています。